

2026年度 始業式校長講話要旨

○新年度が始まった

4月になりました、2026年度の新学期が始まります。東京では、昨年よりやや早い3月28日にサクラの満開宣言が出されました。

日本国内のサクラの約8割を占めるといふソメイヨシノは、江戸時代後半にエドヒガンとオオシマザクラを交配させてできたサクラです。高度経済成長期に日本各地に植えられ、日本の代表的なサクラの木になりました。このソメイヨシノは種子・タネでは殖えません。接ぎ木や挿し木によって、殖やしていきます。ソメイヨシノは同じ遺伝子を持つ「クローン」ということになります。クローンなので、同じ気候条件のもとでは一斉に咲き、一斉に散ることになります。このため気象庁では、ソメイヨシノを標本木として、サクラの開花、満開の桜前線を作り、本格的な春の訪れの指標にしています。クローンであるせいか、寿命が短く、手入れの方法によっては50～70年程度の寿命ということで、現在その延命策が講じられています。サクラと言えばソメイヨシノになってしまいましたが、日本にはサクラの野生種が10種あります。この日本固有の野生種10種に加え、中国原産のカンヒザクラ等が掛け合わさって生まれた園芸品種で流通（栽培）しているものが100種程度、流通していないものを含めると数百種に上ると言われています。サクラの品種の数が断定できないのは、種間雑種を作りやすく新しい品種が生まれやすいためです。ですからソメイヨシノだけがサクラではありません。例えば、この体育館の裏、相撲場のところに見事な枝垂桜があります。他にも八重桜やヤマザクラなどがありますので、ぜひ調べてみてください。

新学期を迎えました。改めて、皆さん進級おめでとう。

先ほど新たに着任された先生方を紹介しました。新しい気分、気持ちで新たな学年での学校生活を始めましょう。

○これからの本校について

本校では、以前から地球的課題への対応として、読解力を育成することを重視していることをお話ししています。「読解力」という文字をひらくと、「読み解く力」になります。本校での学びや体験活動の中から「時代を読み解く力」、「社会を読み解く力」、「世界を読み解く力」を育てていく、としています。

現在の国際情勢をどのように読み解くか、ロシアのウクライナへの軍事侵攻は終わりがまだ見えません。ロシアとウクライナの仲介役を買って出ていたアメリカのトランプ大統領は、イスラエルと一緒にいってイランへの軍事攻撃を始めてしまい、世界の政治と経済は混乱に巻き込まれています。日本ではペルシア湾からの石油が届かなくなり、日常生活にも大きな影響をもたらしています。アメリカとイランがどのような着地点にたどり着くかが見通せない状況ですが、「石油が来ない」、「物価が上がる」ことがマスコミでは盛んに伝えられていますが、このときこそ、感情的に考えるのではなく、冷静に判断、行動することが必要です。

「読解力」と訳されることの多い「リーディング・リテラシー」のOECDの定義によると、「目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、

書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」(OECD 2002)とされています。読み取るだけでなく、それをもとに自分の意見を述べ、主体的に社会参加の行動に結びつけることが必要です。

さて、今年度、本校は、文部科学省より「文理融合型スーパーサイエンス・ハイスクール」の指定を受けました。研究主題は「総合知に基づく哲学思考とデータサイエンスの融合プログラムの研究開発」です。これからの「生成AI時代」を生き抜くことが私たちに問われています。このために、デジタル技術を使いこなして、全ての生徒が「なぜ、なぜ、なぜ」の哲学教育を基礎に探究する姿勢を育み、学びの最適解を探る手法として、「問いを立てる力」を育てていきます。

「スーパーサイエンス・ハイスクール」といっても、本校が理系に特化・専門になったわけではなく、文理融合型のSSHですから、文系からの疑問を理系が解き明かす、あるいは理系から出てきた結果を文系が総合して解答をまとめ、思考を展開するということです。改めて確認しますが、本校の研究主題は「総合知に基づく哲学思考とデータサイエンスの融合プログラムの研究開発」です。様々な入口はあります。「なぜ、なぜ、なぜ」からどのような思考を展開していくかが問われています。

○生成AIについて

これまでも生成AIの使用については、どのように生成AIを使いこなすかということとは話してきましたが、私も最近読んだ本で気づかされたのですが、生成AIを使用することで膨大な電力が使われていることを、我々は認識しているでしょうか。「ジブリ風の絵を生成するAIアプリ」を1回生成するだけでスマートフォンをフル充電するのと同程度かそれ以上の電力量に相当するとの報告もあるそうです。これは生成AIを使用する側のことですが、その裏で生成AIを駆動させるデータセンターには膨大な量のデータが集約され、大量のデータ処理を行うため、その過程で高温の熱を発生させます。この熱は冷却装置を使って外に逃がしますが、結果として周辺の気温を上昇させ、ヒートアイランド現象の一因になっているとの指摘や、冷却に使われる大量の水は水資源への負荷という点でも無視できない側面もあるとのこと。熱を冷却する大量の水は、また冷やして再利用することができますが、熱くなった水をどのように冷やすのでしょうか？ここでもまた電力を使って冷却していくこととなります。

生成AIを使用するには独特のリスクがあり、電力を無自覚に消費してしまうため、使用量が増大することで、地球温暖化につながる可能性があるという意識を持つ必要があります。本校生徒の育成の大きな目標にSDGsへの対応として「地球規模で思考のできる真の国際人の育成」を掲げています。このことに気づいて、ではどのような解決策があるのかを考えてほしいと思います。

○新入生を迎えるに当たって

明日は、中学・高校の入学式です。中学校41人、高等学校516人、合わせて557人の新入生を迎えることとなります。明後日には対面式があります。そして約1840人を超える生徒たちの新しい学校生活が始まります。